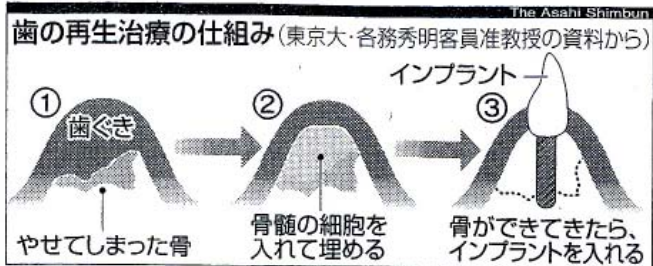


骨髄細胞注入 あごの骨再生

東大医科研

重い歯周病 実用へ一歩

重い歯周病でひどくやせたあごの骨に骨髄の細胞を入れ、骨を再生させる治療が成果をあげている。東京大医科学研究所の各務秀明客員准教授ら



の臨床試験で、10人中8人でインプラント(埋め込み型の義歯)を入れられる状態まで骨が厚くな

った。有力な治療法の一つになりそうだ。20日開かれた歯科インプラント治療のシンポジウムで成果が報告された。

重い歯周病では歯が抜けるだけでなく、歯を支えていたあごの骨もやせていくことが多い。骨の厚さが5ミリ以下になると、義歯が入れられなくなる。義歯を入れるには、これまでは腰や、あごの別の部分の骨を移植するか、人工骨を使う治療しかなかった。

チームは東京医科歯科大などと協力、2年半前から臨床試験を始め、10人の患者から骨髄を採

って培養した。このうち8人に、骨が欠けたときの治療などで使う補填材と一緒に、薄くなったあごの骨に盛った。

半年後に8人とも義歯を埋め込めるまで再生。1年経過した5人ではもとの骨との境目が見えなくなるほどに回復した。課題は、得られる細胞

の質や増え方に、まだばらつきがある点だという。各務客員准教授は「腰骨の移植は健康な骨を傷つけ、2〜3週間の入院が必要だが、今回の方法なら骨髄の採取は外来、細胞の移植も1泊2日できる。中高年の患者に対し、体の負担が少なくてすむ」と話している。(竹石涼子)